広報 那覇 市民の友

第614号 毎月1回発行
2002年（平成14年）
3月

発行●那覇市　編集●秘書広報課
〒900-8585　那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111　●印刷 (株) 池宮商会

みんなでさこう
ラジオ広報
「那覇市民の時間」毎週日曜日
ROK・午前11時45分から55分まで

那覇市ホームページ
http://www.city.naha.okinawa.jp/

のびのびひろびろ

歩いてみようョ国際通り

那覇市のメインストリート国際通りが「トランジットマイル」に。

国際通りを楽しく歩いてみませんか。去る1月27日の日曜日、国際通りが20年ぶりに歩行者天国に変身しました。

「那覇市国際通りトランジットマイル・プレ交通社会実験」として同実行委員会が行ったもので、「トランジットマイル」とは一般車両を規制して歩行者天国にした商店街（トランジットモール）と国際通りの別名（奇跡の1マイル）を組み合わせた造語です。

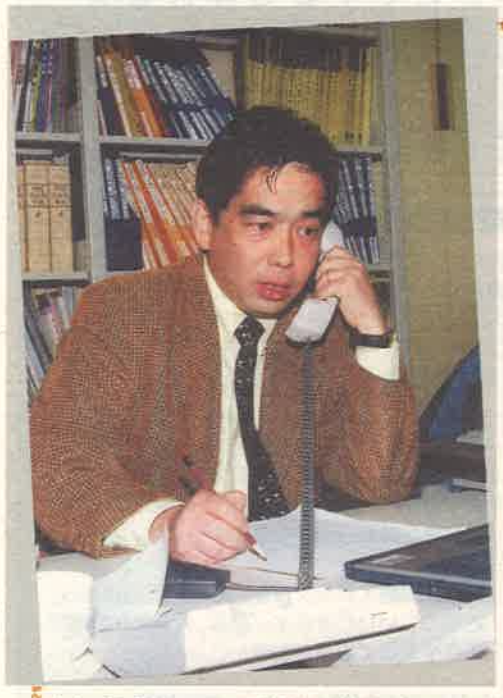
県都のメインストリートとして県内商業の発展をリードしてきた国際通りも、車社会の進展や郊外の大型店の進出などで、中心商店街としての求心力を失いつつあります。このような現状を改善し、渋滞や排ガスのない、環境にやさしく、歩いて楽しい商店街をつくりだす方向性を導くことが今回の実験の目的です。

この日は、通りの中央をゆっくりと無料トランジットバスが運行し、街角にはストリートパフォーマーたちも出現。ベビーカーの親子づれ、愛犬を散歩につれだしたお年寄り、道路にチョークで絵を描くこどもたち、キャリーバッグを引きながらウインドーショッピングを楽しむ観光客など、おおぜいの人々が、渋滞や騒音、排ガスのない国際通りのウォーキングを満喫しました。

主な紙面

（2面）ごみ減量を考える、那覇市の新ルールをみんなで守りましょう
（3面）ゼロエミッションフォーラムを開催
（4面・5面）平成14年度施政方針（前半）
（6面）国民年金の事務手続きがかわります
（7面）情報PACK

支店の視点



次々に飛び込んでくる取材依頼や情報提供にペンとメモを手に機敏に対処する星子育生支局長

星子育生（ほしこいくお）
読売新聞那覇支局
（泉崎1－10－3）

1959年（昭和34年）生まれ。熊本県出身。大分支局を振り出しに、那覇支局（86年4月～88年3月）、西部本社・社会部などを経て、2000年9月、再び那覇支局に支局長として赴任。「事件・事故から基地、医療問題、遺跡、街の話題まで幅広い分野の取材を続けています」

二度目の沖縄赴任で、県内企業が相当変わったと痛感します。本土企業のいいところを取り入れながら沖縄ナイズしているというか・・・。それぞれの「顔」が見えてきました。

一例が、地元大手と本土系のスーパー二社で、主に日曜、祝日に催されるイベントショーです。

登川誠仁さんや饒辺愛子さん、前川守賢さんなどの実力派の歌手が登場することもあり、毎回楽しみにしています。お年寄りや子供たちが場所取りに走り、お目当ての出演者がステージに上がると拍手喝さいの大盛況。このような光景は、本土であまり目にしません。きっと、若い人にも民謡ファンを広げるきっかけにもなっているはずです。

その意味で、スーパー二社が、地元文化に貢献している度合いは決して小さくはなく、いわゆる「企業メセナ」と理解しています。

米同時テロで沖縄観光が大きなダメージを受けた時、真っ先に本土マスコミの各支局を巡って、窮状を訴えたのは地元の航空会社の広報担当者でした。その後も、影響や今後の見通し、対策などのきめ細かな広報がなされ、「沖縄をどうにかしたい」という熱意が伝わります。

対する多くの「お役所」。旧態然としたぬるま湯体質に、あきれることもしばしばです。「やる気や発想の乏しさ」「セクト主義」「特権意識」。市民本位の行政が置き去りにされていないか心配です。昼休み、職場にはだれもいなかったり、問い合わせの電話をたらい回しされたり、と苦い思いもしました。ある役所でのインタビューの際、首長だけにお茶が出されたのには驚きました。

そんな中、那覇市には最近、好感を持っています。市の未来を方向付ける「重要政策マネージメントシステム」の導入、一部窓口業務の時間延長、台風災害状況の迅速な広報、市長自らのNAHAマラソンの売り込みなど、こんな意欲的な取り組みが続けば、着実に体質改善も進むことでしょう。

県都であるが故に、他の自治体もグイグイ引っ張って欲しいと期待しています。

市民課・国民健康保険課の窓口は毎日午後7時まで開いてます。（土・日、祝日を除く）